

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福井県	市町村名		大学名	
派遣日	令和6年10月3日(木曜日) 13:30~16:30 13:00~13:30 講師との打ち合わせ 13:30~14:00 連絡協議会受付 14:00~14:05 連絡協議開始・講師紹介等 14:05~16:40 講演・ワークショップ・情報共有、質疑応答 16:40~16:45 諸連絡 16:45~ 講師退席				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	福井県国際交流会館(第1・第2会議室)				
アドバイザー氏名	島根県出雲市立中部小学校教諭 福山祐子 氏				
相談者	県主催令和6年度外国人児童生徒等教育連絡協議会参加者 ・日本語指導を必要とする児童生徒が在籍する小中高の学校の管理職及び教員 ・日本語指導に係る関係者(外国人児童生徒への支援員等) ・県委託日本語指導アドバイザー(福井大学教授1名) ・県国際交流協会員 ・市町国際交流協会員 ・県教育委員会指導主事 等				
相談内容	1. 外国人児童生徒等を継続的に受け入れている市町、学校等における課題について ・日本語指導員および支援員の確保の困難さ ・生活言語能力についてはある程度身につけている児童生徒が学習言語能力を身につけることの難しさ ・進学・就職に関する課題 ・保護者への対応(宗教・文化の違いによる課題) 2. 新規に外国人児童生徒等を受け入れた市町、学校等における課題について ・日本語指導員および支援員の確保の困難さ ・実態に応じた日本語指導のための体制構築 ・日本語指導担当教員等の指導力向上				
派遣者からの指導助言内容	1. 外国人児童生徒等の支援体制および日本語のコース設計に関すること ①外国人児童生徒等の編入ガイダンスおよび外国につながる児童・保護者を対象とした保護者説明会を開催することの意義について ・入学・編入前に学校生活の流れやきまり、準備物等の連絡を保護者に行うことでスムーズな入学・編入につなげることができる ・学校と保護者の連絡方法の確認や日本語支援に関すること(期間や評価等)を管理職と日本語指導担当者から明示したり、受け入れ学級からのメッセージを伝えたりすることで、保護者および児童生徒の学校生活への不安感を和らげる一助と				

	なる ②外国人児童生徒等の在籍学年、クラスへの働きかけについて 「知ってもらうことが第一歩」となるため、児童生徒の理解に応じた「日本語教室、通級、教室内での支援等」の紹介をすることの大切さ ③日本語指導のコースの設計の具体例について 文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」を活用し、日本語指導コース設計について、「日本語指導の目標（日本語指導のめざす姿）」「日本語で考える力とは」「実態把握のための日本語力チェック」「各コースの実施期間」など児童生徒の実態に合わせて設計することの大切さ 2. 授業（教科と日本語の統合学習）のつくり方に関すること ①授業づくりのステップについて 教科と日本語の統合学習においては、「学習内容を決定」→「目標の設定」→「計画・展開の構想」→「支援の工夫」と段階を踏んだ授業づくりをすること ②授業の目標設定について 「概念：教科の目標に関すること」「語彙：教科の学習に必要な語彙」「表現：理解したことを必要な語彙を使って説明」の3ポイントを踏まえて授業の目標設定することの大切さ 3. 模擬授業、授業目標設定のワークショップ演習に関すること ・教科と日本語の統合学習のための授業を模擬授業形式でご教示 ・日本語指導を教科でどう取り入れていくかや、指導の際の大切なポイント ・具体的な教材をもとに、概念、語彙、表現3つのポイントを押さえた授業の目標設定演習および共有
相談後の方針 の変化、今後 の取組方針等	・有識者による講演・講習の継続し、日本語指導に係る関係者が専門的な知識を深めていけるようにする ・文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」「かすたねっと」「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント」等の活用を促す ・入学・編入時の支援体制づくりの重要性について再認識したことについて周知を図る ・日本語指導に係る様々な関係者が集まり、それぞれの実践や課題を共有し合うことができる場の提供（外国人児童生徒等教育連絡協議会）の継続実施

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。